

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	救急隊指導業務事業	所管	消防本部 救急課
			TEL 2929-9123

事業の目的 (何の為に 行うか)	傷病者を救急現場から医療機関に搬送する間に、医師による医療行為及び救急隊員が行う救急救命処置等を行う体制の充実を図り、救命率の向上を目指すことを目的とする。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	救急隊により医療機関へ搬送した心肺停止傷病者	対象とした数	179	人
		実際に 利用した数	156	人

活動の内容 (何を したか)	① 救急隊指導医の協力を得て、高規格救急車に指導医が搭乗して救急現場に出場する体制 ② 常時、医師の指示・指導を受けて救急隊員が救急現場や救急車内での救急救命処置が行える体制 ③ 常時、傷病者収容に二次医療機関か三次医療機関か迷った時に指導医に助言を求められる体制 ④ 救急隊等の事後検証								
	活動実績	項目名	指示・助言を受けた 件数	408	項目名	心肺停止傷病者数	179	項目名	呼吸・心拍再開者 数
			単位 回			単位 人			単位 人

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	7,518	7,518	9,959	29.4

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	呼吸・心拍再開率	呼吸・心拍再開した人数(1ヶ月以上生存していた人数)÷救急隊が医療機関へ搬送した心肺停止傷病者	10 単位 %	12.3 単位 %	123.0 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕				
		終了	⇒	事業完了	終了	休止
	予算	* 現状どおり		増額	減額	終了

今後の 方向性 (二次評価 の意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合評価	拡充	縮小	統合	改善・効率化	改善余地なし その他〔 〕 終了
	予算	現状どおり		増額	減額	終了

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名	事業コード	担当部課	部課コード	100400	TEL	2929-9123
100404	救急隊指導業務	消防本部	救急課			
開始年度	平成 7 年度	→	終了年度	平成 年度		

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令
	分野別計画・指針	なし			
	関連・類似事業	メディカルコントロール協議会運営事業(救急課)			
	総合計画の体系	政策	第6章 みんなが安心して暮らせるゆとりあるまち	施策	1節 消防・救急
				中柱	3 救急業務の高度化
			小柱	(4) 救急隊員の教育の充実	
	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 13 位		実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○		
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ				
	コード	3261	事務事業見直しの推進	コード	
	事業開始の背景	平成3年救急救命士法が施行され、救急救命士が医師の指示の下で救急救命処置を行える事となった。このことを踏まえ医師の指示・助言体制及び高規格救急車への医師の搭乗体制が確立された。			

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	傷病者を救急現場から医療機関に搬送する間に、医師による医療行為及び救急隊員が行う救急救命処置等を行う体制の充実を図り、救命率の向上を目指すことを目的とする。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	救急隊により医療機関へ搬送した心肺停止傷病者				
	利用数の考え方	医師からの指示・助言を受けて、救急救命処置を行った傷病者数				
	対象数	単位	平成 18 年度	170 人	平成 19 年度	179 人
			平成 18 年度	152 人	平成 19 年度	156 人
	事業の具体的な内容及び実施方法	① 救急隊指導医の協力を得て、高規格救急車に指導医が搭乗して救急現場に出場する体制 ② 常時、医師の指示・指導を受けて救急隊員が救急現場や救急車内での救急救命処置が行える体制 ③ 常時、傷病者収容に二次医療機関が三次医療機関が迷った時に指導医に助言を求められる体制 ④ 救急隊等の事後検証				

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	最終評価	<input checked="" type="checkbox"/> 一次評価	<input type="checkbox"/> 二次評価
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	平成19年度中に改善した点	なし		

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		7,518	7,518	7,518
	決算 (見込み含む)		7,518	7,518	
	(嘱託職員) (臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費		0.25 人 2,300	0.25 人 2,441	※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。
	公債費				
	事業費合計		9,818	9,959	
	財源内訳	一般財源	9,818	9,959	7,518
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
	市民一人当たり(単位:円)		29.1	29.4	
	利用数一単位あたり(単位:円)		64,592.1	63,839.7	

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	指示・助言を受けた件数	指導医による指示・助言件数	回	406	408	400
		心肺停止傷病者数	救急隊が医療機関へ搬送した心肺停止傷病者数	人	170	179	180
		呼吸・心拍再開者数	呼吸・心拍再開した人数(1ヶ月以上生存していた人数)	人	10	22	20
	成果分析	呼吸・心拍再開率	呼吸・心拍再開した人数(1ヶ月以上生存していた人数)÷救急隊が医療機関へ搬送した心肺停止傷病者	%	目標値 10	10	11
				実績 5.9	12.3		実績値の拡大を図る1
				達成率 59.0	123.0		実績値の縮小を図る2 1

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし		消防本部
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業 <input type="checkbox"/> 統合等必要なし		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	救急救命士の行える処置は、除細動、器具による気道確保、気管挿管、静脈路確保、薬剤投与となり、心肺停止傷病者対応において医師と遜色ないレベルまで達しており成果(呼吸・心拍再開率)も上がっている。これまで、医師が高規格救急車に搭乗して出場する救急事業として心肺停止傷病者を中心にしてきたが、早期から医師の対応が期待される重症外傷傷病者への出場を増やすなど、その効率的運用を検討する必要がある。		
	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	平成20年度における目標設定	昨年同様救急隊員の資質向上。高規格救急車に指導医が搭乗して出場する体制及び救急隊等の事後検証の事業強化を行う。	通年	
		医師が高規格救急車に搭乗して出場する救急事業	早期から医師の対応が期待される重症外傷傷病者などに修正する	
	平成21年度における事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 []) <input type="checkbox"/> 終了 ⇒ (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	評価理由	救急救命士が救急現場や救急車内で行う救命処置は、医師の指示のもとに実施するものであり、気管挿管や薬剤投与等の処置ができるようになった現在、指導医による指示・助言体制は必須である。また、指導医が高規格救急車に搭乗し出場する体制は、心拍停止傷病者の救命率に有効であるとともに、救急隊員の資質向上及び指導医と救急隊員との円滑な関係を構築する上で必要な体制であり、出場対象の見直しなど更に洗練させる必要がある。		
	評価日	平成20年5月7日	記入者職氏名	救急課長 荒嶋憲作

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由							
	評価日							
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	
		見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
			市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
		評価理由						C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
		評価日						

⑩個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
	基本目標			
	主要課題			
	施策の方向			